



元高岡市議会議員・鳴川武秀の挑戦!!

※2/27付で、高岡市議会議員を辞職いたしました。

様々なお声を頂戴しました



Q 市議で何の仕事をしてきたの？



・まず、不妊治療助成事業に着手しました。高岡市の事業費を増やし、住んだその日から助成対象とするなど、事務手続き面での間口も広げました。昨年4月、国が不妊治療を保険適用としたタイミングに合わせて実施することができました。

・高岡市にて初開催の二上山トレイルラン大会では、二上山の景観保護と利活用を進め、当該地域が観光資源であることを地元が再認識し、大会を通じて全国に発信する機会となりました。第2回目以降も、高岡市の風物詩として定着するまで、私も実行委員会の会長として活動します。

・自ら防災士となり、防災士を増やす活動、また、災害時の市の情報発信の在り方について質問を重ねました。道路整備、河川の雑木の伐採なども含め、事故がなく災害に強い街づくりに尽力しています。

・二足の草鞋を掲げ、漫才師として出演した全国の舞台にて、高岡市をPR。また二上山トレイルラン大会の活動を高岡市ふるさと納税型クラウドファンディング事業へとつなげるなど、ふるさと納税の増額に尽力しました。

・新婚世帯への住居費・引っ越し費用等を支援するため、内閣府の結婚新生活支援事業の県との連携を自ら押し進めることで、新年度から実現する運びとなりました。



Q 挑戦後は何をやるの？



市議会議員として活動する中で、様々な勉強をさせていただき、一次情報に触れる機会も多くなりました。高岡市の課題はたくさんあります。公共施設再編の問題、公共交通のあり方、観光客誘致、伝統産業の継承、子ども子育て支援など、数え上げればきりがありません。これらの根本にある問題は、人口減少です。人が減り、経済が

弱り、街がさびれ、活気を失っていく...この4年間で、高岡市の人口は約6,000人減りました。20年後には3万人減と言われてます。今何ができるのか？市議として取り組んできた、「子供を持つことを経済的理由により諦めてしまう人を減らす」ことを原点として、少子化対策のあらゆる段階(出会い、結婚、妊娠、出産、子育て)において、支援の拡充につとめます。併せて、富山県ならびに高岡市に移住、定住する人を増やす政策立案にも尽力します。まずは人口減少のスピードを少しでも遅らせ、元気ある地元を取り戻すことに全力で取り組みます。

また、市民の皆さんにとっては、普段よく行かれる市役所と違って、県の仕事は相対的に身近ではないと思います。実は生活に密着している県の政策を、更にご理解いただくための橋渡し役にもなりたいと思います。

定例議会での一般質問



Q なぜ、1期4年間で全うしないの？



上記に書かせていただいた通り、人口減少のスピードは加速度的で、待ったなしにもかかわらず、現状は、国から、県から、素早く情報や原資が下りてきていると言えない状況です。お正月明けに新婚世帯支援について、県に直接交渉に行き、県の動きを知り、行っていないければ高岡市の政策が周回遅れになったかもしれないと戦慄

しました。とにかく早く動かなくてはならない。ご存知の通り、高岡市は市議選と県議選に、2年のズレがあります。そのズレを理由にこの状況を看過して良いのか。その時高岡市の状況が、今と比べて更なる人口減少、経済縮小している可能性は、想像に難しくありません。「今行かねば!」と爆発的に決意し、今すぐ自分にできることを全力で実行して参ります。

もちろん、市議として頂戴した11,000票あまりの票の重さは自覚しております。私自身は、この1年半は休みなく活動してまいりましたが、2年半の任期を残しての挑戦についてのご批判は覚悟しております。だからこそ、皆様の期待を上回る仕事をしたい。それが次の目標に向かう私の決意です。このスピード感、そして市政と県政の緊密な連携という試みは、市議として皆様から大きな後押しを頂いた自分だからこそ、成し得ることと確信しております。

市議在職中の活動など



Q もう高岡市の仕事はしないの？



そうではありません。会派「高岡愛」として、高岡市議会に議席を持ちつつ、さらに県政にも声を届けられるようにしようという今回の挑戦です。県には国からの情報がダイレクトに下りてきますから、国の情報やお金、県の情報やお金を最適な形でより早く高岡市に届けるため、県と市との連携をはかるパイプ役が必要です。

「高岡愛」はこれからもワンチームとしての活動を続けます。地元の皆様とも、地域の問題・課題には引き続き率先して対応させていただきお約束をいたしました。

また、逆に、高岡市のことだけ考えているのか?というご質問もいただきました。高岡市選出の県議は、まずは自身が高岡市の代表であることは常に自覚しなくてはならないと考えます。その上で、県全体の政策に意思を持って取り組んでまいります。

円楽師匠に言われました。「市議は市議の仕事をしろ。」それは、置かれた立場で、その立場の仕事をしなさいということです。そして続けて、「チャンスがあったら、常に上を目指せ。そして働け。草鞋は何足でも履け。」と。私は亡き師匠のこれらの言葉を胸に、全力で挑戦し続けます!!

高岡愛 出町議市議会議員 熊木義城市議会議員

